

経営比較分析表（平成30年度決算）

神奈川県三浦市 市立病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
条例全部	病院事業	一般病院	100床以上～200床未満	自治体職員
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	13	-	ド訓	救輸
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	看護配置	
43,770	9,393	第2種該当	10：1	

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

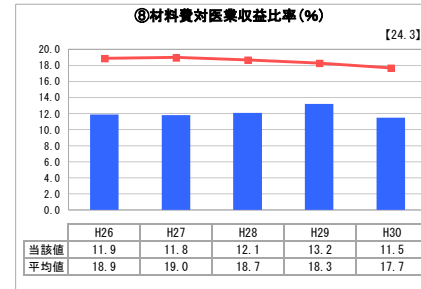
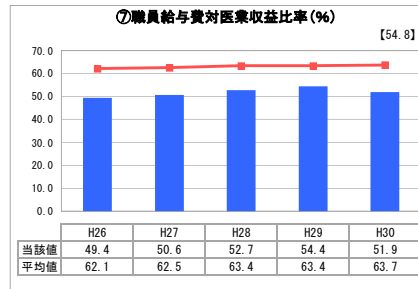
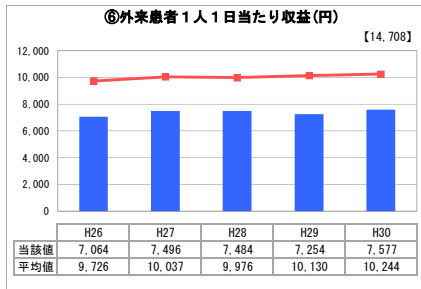
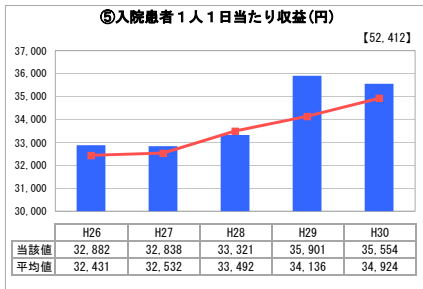
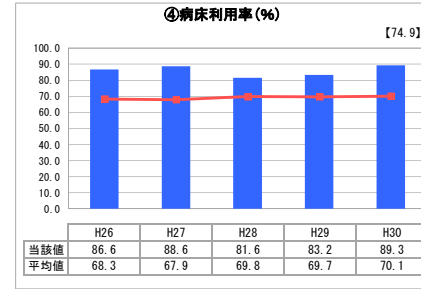
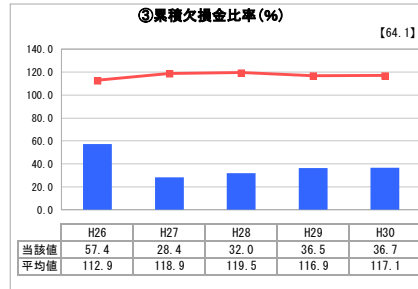
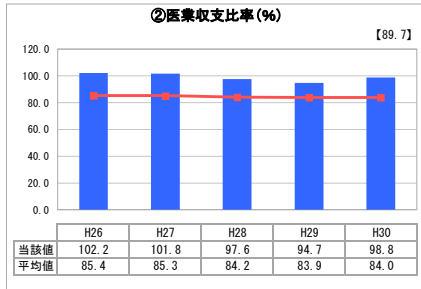
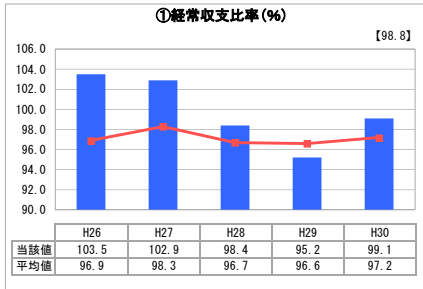
※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輸…病院群輪番制病院

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
136	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	-	136
稼働病床（一般）	稼働病床（療養）	稼働病床（一般+療養）
136	-	136

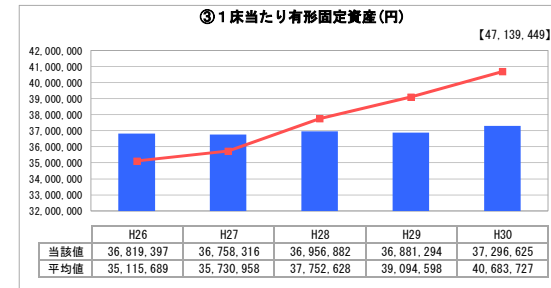
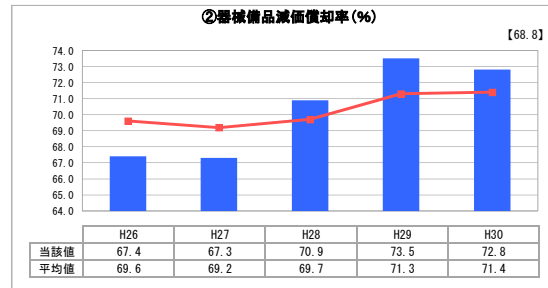
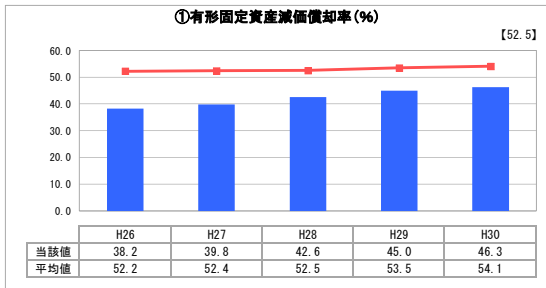
グラフ凡例

- 当該病院値（当該値）
- 類似病院平均値（平均値）
- 【】 平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



公立病院改革に係る主な取組（直近の実施時期）

再編・ネットワーク化	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
-年度	-年度	-年度

I 地域において担っている役割

市内唯一の総合病院として、地域に必要な急性期機能（二次救急として超急性期病院とのシームレスな連携）と回復期機能（医療と介護の連携、地域包括ケアシステムの構築、在宅や介護施設への復帰支援）を担っています。
また、地域住民の健康づくりにあたり、病気の予防並びに早期発見及び早期治療に繋げるため、市と連携し、多彩な健（検）診メニューや予防接種を提供しています。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

平成30年度は、地域包括ケア病床を28床から40床に増床し、在宅復帰の体制を強化しました。また、ボトムアップから経営改善の提案を行うプロジェクトチームを院内で組織し、提案された132件の案件の達成に向けて院内全体で取り組んでいます。
これらの取り組みにより、平成30年度は2年連続して入院収益が増加し、費用も平成29年度に比べ減少し、経常収支比率、医療収支比率及び病床利用率が平成29年度に比べ改善しました。
しかし、経常損益は3年連続の赤字となっており、さらなる経営努力が必要です。

2. 老朽化の状況について

平成30年度は、大きなものとして、施設関係では屋上防水改修工事の実施、器械備品関係では核磁気共鳴断層撮影装置（MRI）の更新及びX線骨密度装置の新規導入を行いました。
経営状況を踏まえつつ更新を進めていますが、建物及び建物附属設備は建設から14年を経過しているため、近年は修繕が必要な箇所が多数出てきている状況です。
また、器械備品関係についても、法定耐用年数5年から6年を超えて使用することが多く、老朽化が進んでいます。
診療の質を保つため、優先順位を見極めながら更新を進めていきます。

全体総括

入院収益に関しては、耐性菌のアウトブレイクの影響を受けた平成28年度を除けば、入院患者数及び入院患者1人1日当たり収益の増加により、平成25年度から毎年度増加しています。
対して、外来収益は外来患者数の減少により減少が続いており、原因の分析と収益増加の対策を講じる必要があります。
また支出については、人件費及び委託料の増加が続いているため、支出の削減・抑制の対策を検討します。

※「類似病院平均値（平均値）」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。